

中学校から始めた卓球を大学でも続けたいと思い、入学と同時に横浜国立大学卓球部の門を叩いた。入学当時は、横浜市保土ヶ谷区の保土ヶ谷ゴルフ場跡地に常磐台キャンパスが完成し、鎌倉や清水が丘、弘明寺に分散していた教育学部、経済学部、経営学部、工学部が移ってきた時期であった。

練習日は前半と後半に分かれており、前半は卓球を楽しむ学生を含めてゼミと呼ばれるグループに分かれて男女一緒に練習をしていた。7時過ぎから始まる後半は、レギュラー練習と称し、関東リーグや全国国公立大会、関東甲信越大会を目標に10時ごろまで練習に打ち込んだ。仕事を終えられたOBをはじめとして一般社会人の方も練習に来られ、鍛えられた。夏休みは部員全員で行う一般合宿と関東リーグを目指すレギュラーメンバー合宿と2回あった。まさに卓球漬けの大学生活であった。

大学院修了後は、高校教員として卓球部の指導を始めた。当初は昇降口に卓球台を3台出しての練習であった。2000年に初めて関東大会に出場することが出来、今年で10年連続16回目の出場となった。インターハイに団体戦で初めて出場したのが顧問になって17年目のことである。神奈川県には、湘南工大付属、三浦学苑、横浜商業と伝統ある強豪校がひしめいており、そのなかで団体戦でインターハイに出場できたことは指導者として感無量であった。生徒たちの頑張りに感謝したい。チーム作りの基本は横浜国大卓球部学んだ主体性である。大学4年間の卓球部生活で様々なことを学べたことは大きかったと思う。

15歳から18歳の高校時代は、乾いたスポンジのように様々なことをどんどん吸収し、人生の中で大きく変化する時期である。あどけなさが残る高校1年が高校3年生になると立派な青年に成長する。身体的にも大きく変わるが最も変わるのが考え方である。自ら考えて行動するようになる。指導者はその成長を如何にサポートしていくかが腕の見せどころである。卓球が大好きな高校生が卒業して大学でも続けてくれるのが何よりである。国公立では、東京大学、東京工業大学、一橋大学、横浜国立大学などの卓球部で頑張ってくれている。また、慶應義塾大学には歴代10名以上の卒業生が卓球部にお世話になっている。

高校生の指導をしてきて40年近くになる。その間、高体連の役員として試合運営をしてきた。強化担当して県内上位の生徒を連れて県外遠征や海外遠征の引率もした。他校の生徒、顧問ともたいへん親しくなれた。また、横浜市卓球協会、神奈川県卓球協会の役員として市内、県内のジュニア強化に携わってきた。2020年からは日本卓球協会の役員を仰せつかった。この間、卓球が大好きな多くの方々にお会いすることができ、自分自身の人生が豊かになったと思う。卓球を続けてきて本当に良かったと思う。今後も卓球の楽しさを伝え、少しでも卓球界に貢献できたら、と思っている。